

経済・金融 フラッシュ

鉱工業生産 14年1月

～駆け込み需要対応で増産ペースが加速

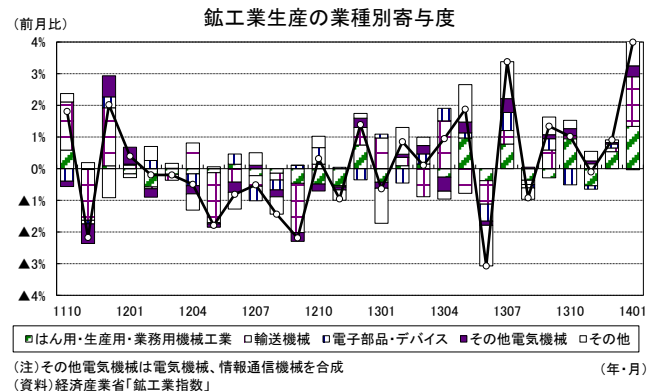
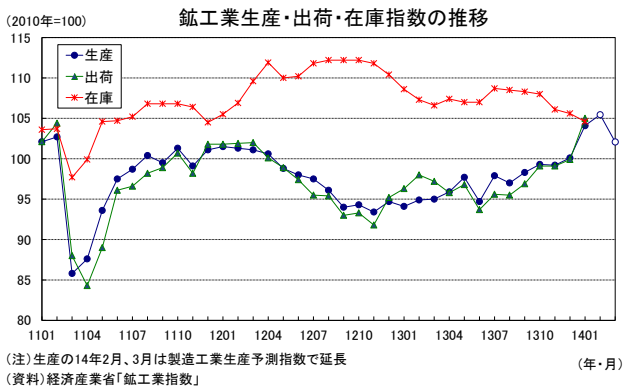
経済研究部 経済調査室長 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

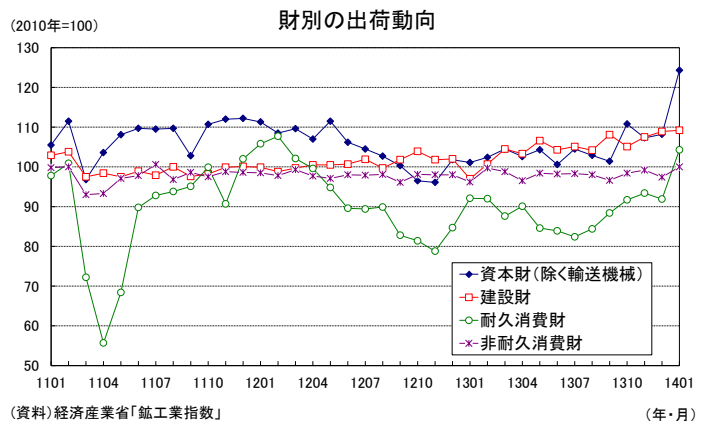
1. 1月の生産は市場予想を上回る高い伸び

経済産業省が2月28日に公表した鉱工業指数によると、14年1月の鉱工業生産指数は前月比4.0%と2ヵ月連続の上昇となり、事前の市場予想(QUICK集計:前月比3.0%、当社予想は同2.0%)を上回る結果となった。出荷指数は前月比5.1%と2ヵ月連続の上昇、在庫指数は前月比▲0.9%と6ヵ月連続の低下となった。

1月の生産を業種別に見ると、速報段階で公表される15業種中、11業種が前月比で上昇(4業種が低下)したが、特に輸送機械(前月比8.0%)、はん用・生産用・業務用機械(前月比9.6%)が高い伸びとなった。輸送機械は輸出が持ち直していることに加え、消費税率引き上げ前の駆け込み需要もあって国内販売の好調が続いていること、はん用・生産用・業務用機械は設備投資の持ち直しが明確となりつつあることを反映したものと考えられる。



財別の出荷動向を見ると、設備投資のうち機械投資の一致指標である資本財出荷(除く輸送機械)は13年10-12月期の前期比5.7%の後、14年1月は前月比14.9%となった。また、建設投資の一致指標である建設財出荷は13年10-12月期の前期比1.3%の後、14年1月は前月比0.3%となった。13年10-12月期のGDP統計の設備投資は前期比1.3%と3四半期連続の増



加となったが、14年1-3月期の設備投資は伸びをさらに高めることが予想される。

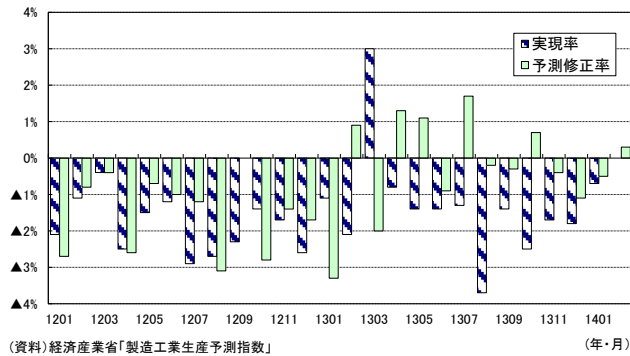
消費財出荷指数は13年10-12月期の前期比4.8%の後、14年1月は前月比8.2%となった。特に、消費税率引き上げ前の駆け込み需要が顕在化している耐久消費財が前期比13.5%と非常に高い伸びとなった(非耐久消費財は前期比2.7%)。13年10-12月期のGDP統計の個人消費は前期比0.5%と7-9月期の同0.2%から伸びを高めたが、駆け込み需要の本格化を主因として14年1-3月期は伸びが急加速する可能性が高い。現時点では1-3月期の個人消費は前期比2%台の伸びになると予想している。

2. 2月、3月の生産計画は増税後をにらんだものに

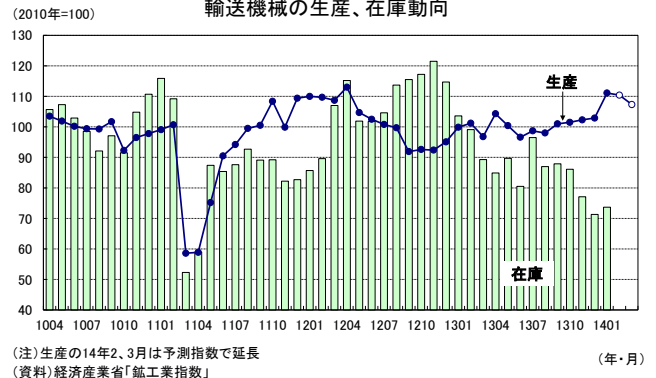
製造工業生産予測指数は、14年2月が前月比1.3%、3月が同▲3.2%となった。生産計画の修正状況を示す実現率(1月)、予測修正率(2月)はそれぞれ▲0.7%、0.3%となった。予測修正率は4ヵ月ぶりのプラス、実現率は10ヵ月連続のマイナスとなったが、マイナス幅は縮小した。

予測指数を業種別に見ると、足もとの生産を大きく押し上げている輸送機械(2月:前月比▲0.6%→3月:同▲2.8%)、はん用・生産用・業務用機械(2月:前月比▲1.5%→3月:同▲5.8%)は2月、3月ともに減産計画となっている。また、3月については予測調査が実施されている全ての業種が減産計画となっている。企業はすでに消費税率引き上げ後の需要の落ち込みに備えて在庫水準の調整を図り始めている可能性がある。

最近の実現率、予測修正率の推移



輸送機械の生産、在庫動向



14年1月の生産指数を2月、3月の予測指数で先延ばしすると、14年1-3月期は前期比4.4%となり、13年10-12月期の前期比1.8%から増産ペースが加速することはほぼ確実とみられる。

2月、3月の予測指数は強くないが、13年度内に一定の生産調整が行われることによって増税後の在庫積み上がり抑制されれば、その後の生産調整は軽微なものにとどまる可能性が高くなる。14年度入り後の生産動向を占う上では、消費税率引き上げ前後の在庫の動きが注目される。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。